

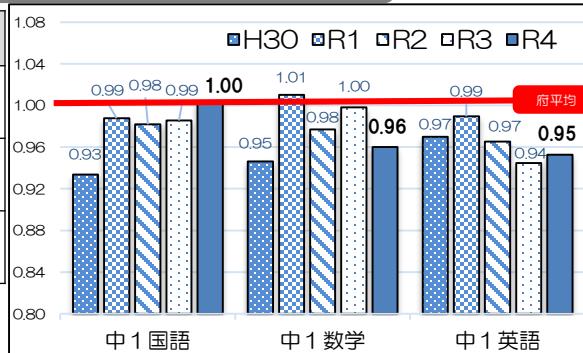
調査の概要

- 調査実施日 令和5年1月11日（水）
- 調査の目的
  - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
  - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
  - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
  - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
  - ◆学力に関する調査 1年生（国語・数学・英語） 2年生（国語・社会・数学・理科・英語）
  - ※2年生の社会・理科は各校の指導計画に応じて「A問題」と「B問題」から選択します。本市において、今年度は、社会では全5校がA問題を選択、理科ではA問題を2校、B問題を3校が選択しました。
  - ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）全8問
- 調査参加者 1年生（府全体 57,989人 うち、本市参加者 598人） 2年生（府全体 57,531人 うち、本市参加者 548人）
- ※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部分です。

1年生

教科別平均点・対府平均比経年比較

	国語	数学	英語
本市平均点	58.8	52.8	56.3
大阪府平均点	58.6	55.0	59.1
対府平均比	1.00	0.96	0.95

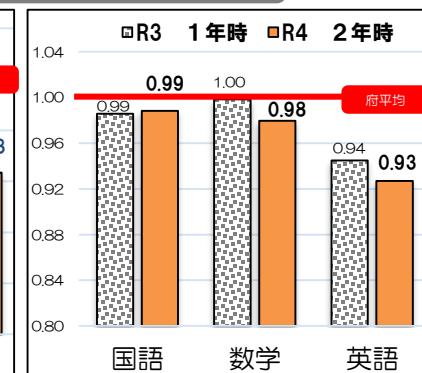
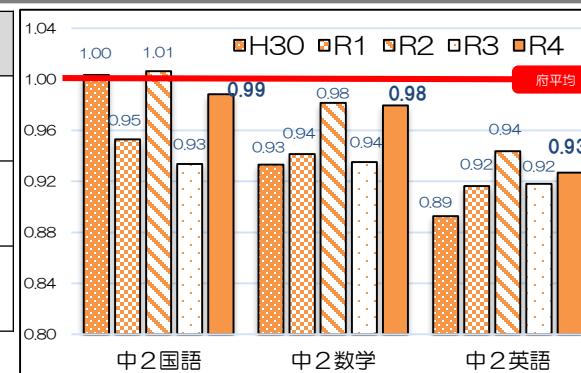


2年生

教科別平均点・対府平均比経年比較及び同一集団での対府平均比経年比較

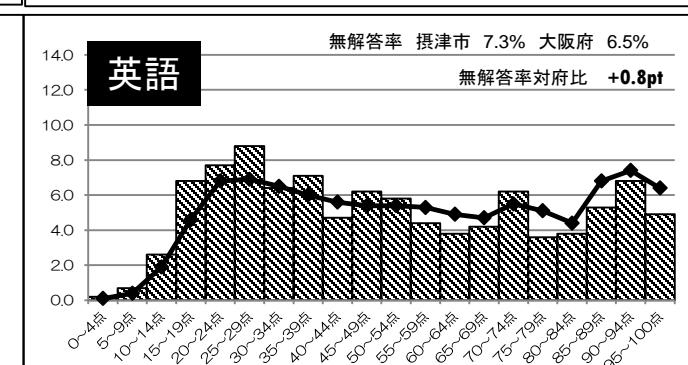
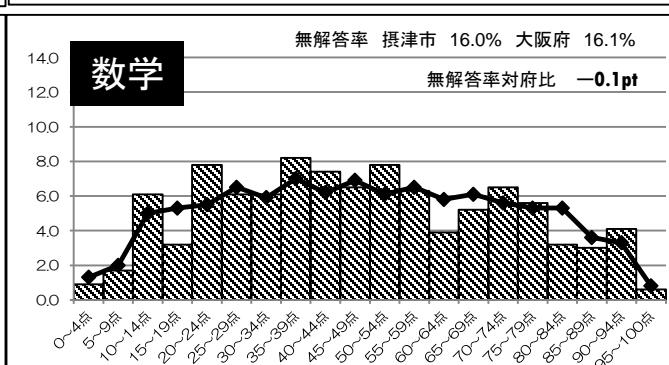
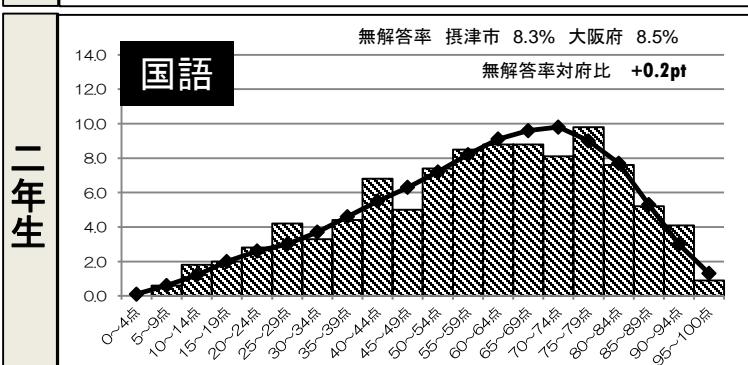
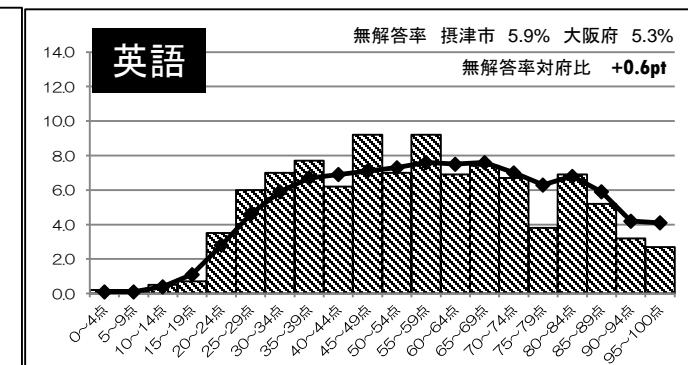
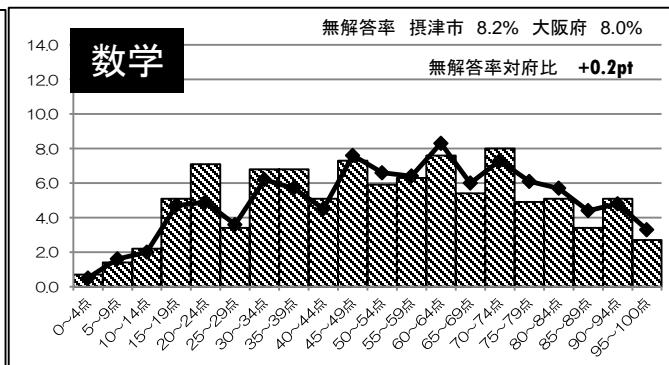
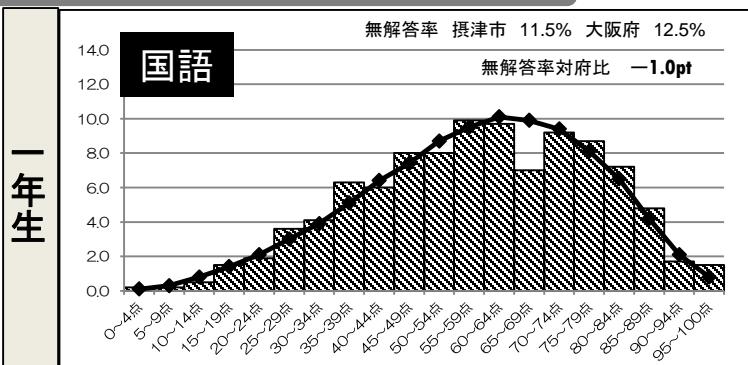
	国語	数学	英語	社会	理科
本市平均点	58.9	48.0	52.0	43.0	48.4
大阪府平均点	59.6	49.0	56.1	44.4	53.0
対府平均比	0.99	0.98	0.93	0.97	0.91

理科はA問題を2校、B問題を3校が選択したため、全体の総数から平均点を算出しております。



教科別得点分布・無解答率

■ 摂津市 ▲ 大阪府



調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】

1年生の国語において、府平均を超え、過去5年で最も高い結果となりました。小学校段階から、授業で子どもたちが身につける力を明確にし、主体的・対話的に学ぶ場を多く設定する等、授業改善が進んだ結果だと捉えております。しかし、数学・英語については、課題の残る結果となりました。

2年生においては、国語・数学では府平均にわずかに届かず、英語で府平均を0.07pt下回る結果となりました。

2年生同一集団を経年で比較すると、国語は同数値ながらやや改善し、数学・英語でやや低下するという結果となりました。

【教科別得点分布・無解答率】

1・2年生ともに、英語において最上位層が少ない傾向があり、課題と捉えております。無解答率対府比については、1年生・2年生ともに例年と比べ改善傾向にあります。特に「国語科の記述式問題」において、無回答率がすべての問題において府平均より下回る（最後まであきらめずに書いている）結果となり、正答率も府平均を上回る結果となりました。

今後に向けて

教育委員会では引き続き、各校の取組への適切な指導や助言を行い、成果を上げている学年・教科の好事例について市内全校で共有できるよう、以下のように支援していきます。

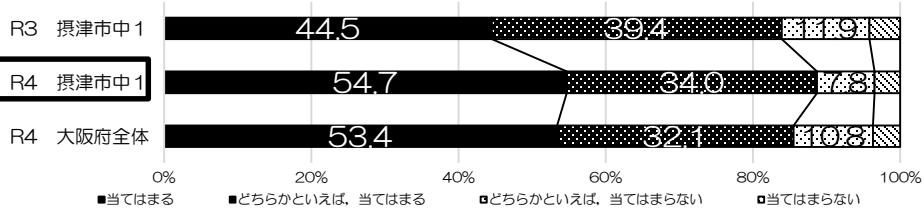
- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 児童生徒と学習計画や授業の目的・目標を共有し主体性を育む授業づくりや、話し合い活動・相互評価等を組み込むことで互いの良いところを認め合うことができる授業づくりを、市内全体で推進していきます。
- 中学校区内の学校間で研究授業及び公開授業を相互に参加し合い、児童生徒につけたい力や学力向上の取組を共有し、小中学校での9年間を見据えた学力向上の取組を行います。
- 社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための「キャリア教育」を充実させ、将来を見据えながら主体的に学ぶ児童生徒の育成に取り組みます。

中 1

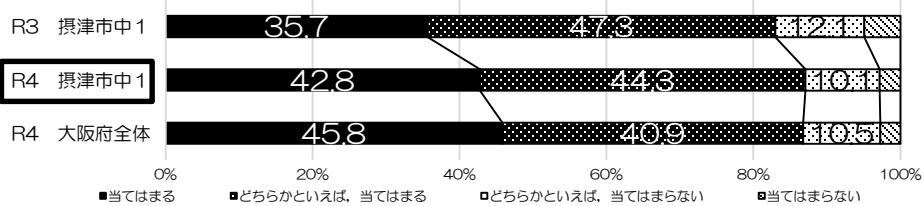
①授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



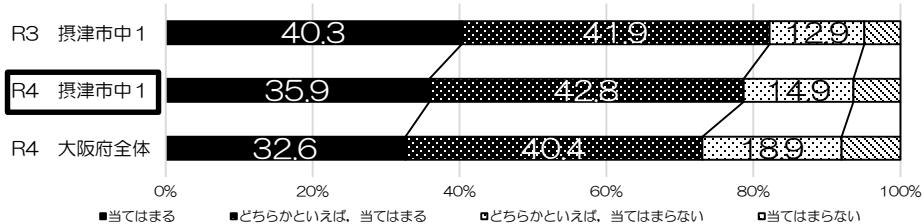
②授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



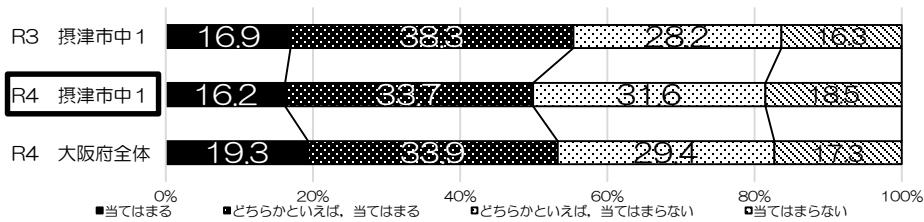
③授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている。



④授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。

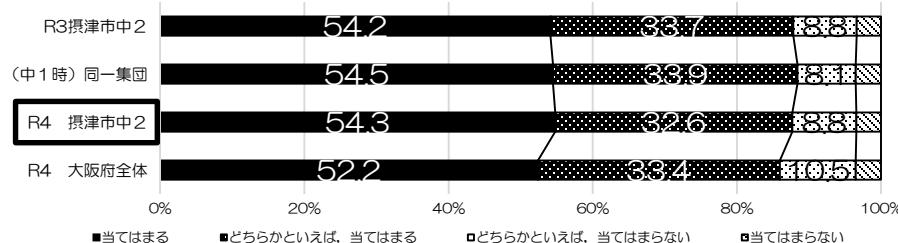


⑤自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。

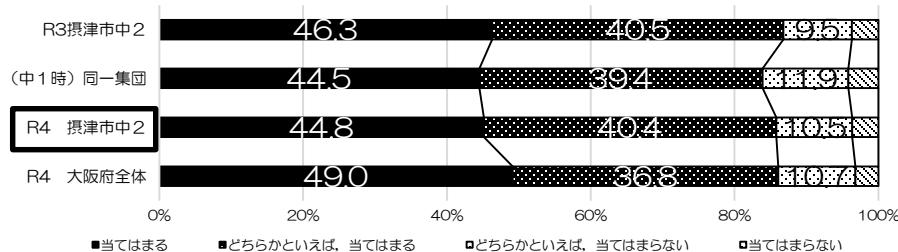


中 2

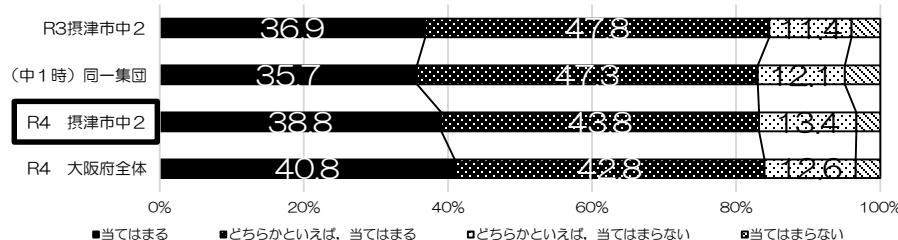
①授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



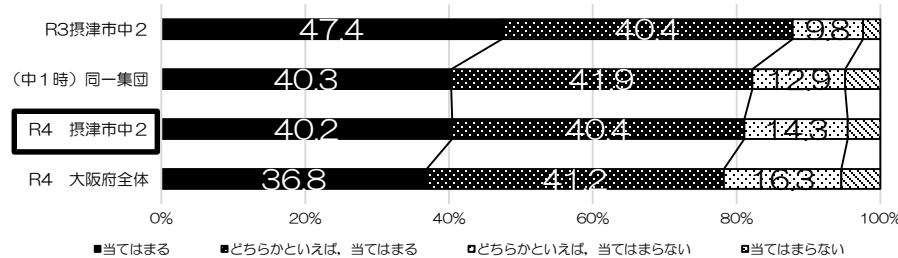
②授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



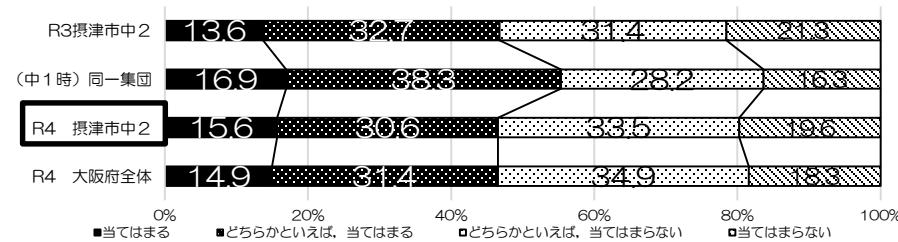
③授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている。



④授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



⑤自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



生徒アンケートについて

【自分の考えを書く・伝える】

1年生は、質問項目①②の肯定的回答の割合(※)が府平均を上回り、昨年の1年生と比べても大きく改善しています。また、2年生においても、①の肯定的回答の割合が府平均を上回っており、②の数値も同一集団で改善されています。これは、摂津市全体で取り組んでいる授業改善の成果によって、「主体的・対話的で深い学び」が広がり、自分の考えや意見を書き、伝える場面が増えている結果だと捉えております。質問項目③については府平均を若干下回る結果となっていることから、今後は自分の考えをしっかりと伝える力とともに、相手の考えを取り入れながら考えを深め広げられる力の育成にもより一層取り組んでまいります。

【インターネットなどによる調べ学習】

質問項目④では、1・2年生ともに府平均は上回っているものの、昨年の同学年生徒と比べると下回る結果となっております。また、学校別に見ると、④の肯定的回答の割合が同一集団で1年時から向上している学校において、各教科の平均点が高い傾向が見られます。これらの傾向を踏まえ、生徒たちが授業の中で、課題に対して自ら調べ解決を見出すことやデジタルの特性を生かした効果的なICTの活用ができるよう、授業改善に努めてまいります。

【主体的な家庭学習】

質問項目⑤において、1年生では府平均を下回り、2年生では同一集団の肯定的回答の割合が大きく減少しました。また、学校別に見ると、⑤の肯定的回答の割合が高い学校ほど各教科の平均点も高く、相関関係がはっきりと見えています。学校や塾・保護者からの強制ではなく、自分で課題を見つけて学ぶ姿勢は、これからの社会に求められる資質であると言われています。今後は、生徒の主体性を向上させ、自ら学ぶ力を身につけられるような取組を摂津市全体で進めてまいります。

《家庭へのお願い》

○学校での授業の様子や宿題・課題の内容について、時には一緒に問題を解いたり、意見を交わしたりしながら、子どもたちとたくさん話す機会を作っていただきますようお願いいたします。  
○スマートフォンやゲーム機等の節度ある適切な使用について、家庭でよく話し合い、ルールを決めるなどの対応をお願いいたします。  
○家庭学習の定着・積み重ね・習慣化が、子どもたちの力となり、中学3年時の進路選択や、その後の未来を生き抜く力に大きく関わります。家庭学習ができる環境を整え、子どもたちを見守り応援していただきますようお願いいたします。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の合計を表します。